ワーク・ライフ・バランス社会の実現度指標の考え方（メモ）

【目的】

ワーク・ライフ・バランスに関する様々な視点からの指標を整理して、時系列的な推移を見ることにより、社会全体で見たワーク・ライフ・バランス実現度を測り、課題を把握する。

【実現度を測る目安について】

ワーク・ライフ・バランスとは、老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動について、自ら希望するバランスで展開できる状態であることから、「仕事・働き方」、「家庭生活」、「地域活動」、「自己啓発や趣味・娯楽等」、「健康・休養」の分野において、状況を把握する。

ワーク・ライフ・バランスの実現度は、多様で柔軟かつ過重な負担とならない働き方が実現し、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など、様々な活動がより充実することにより高まるものとする。

仕事・働き方

仕事が、仕事以外の生活の充実を妨げず、個人の人生の段階に応じた多様で柔軟かつ過重な負担とならない働き方が実現しているか。そのための取組は進んでいるか。

家庭生活

男女の家庭生活への関わり方についての希望や事情の変化に応じて、充実した家庭生活を送れているか。そのための支援は進んでいるか。

地域活動

自ら希望するバランスで、地域活動に参加する時間を確保できているか。働く人々も含め多様な人材が地域活動へ参加しているか。そのための支援は進んでいるか。

自己啓発や趣味・娯楽等

自ら希望するバランスで、自己啓発等を行う時間を確保できているか。そのための支援は進んでいるか。

健康・休養

バランスのよい働き方をして休養が十分に取れ、疲労の蓄積等がなく心身ともに健康に過ごせているか。そのための支援は進んでいるか。